

イギリス女子身体教育のトランスナショナルな伝播

—二階堂トクヨとマルティナ・オスターバーグ—

香川せつ子（津田塾大学言語文化研究所）

本発表は 19 世紀後半から 20 世紀初頭における女子身体教育のトランスナショナルな伝播を、二階堂トクヨ（1880-1941）とマルティナ・オスターバーグ（Martina Bergman-Osterberg, 1840-1915）に焦点をあてて考察する。二階堂トクヨは二階堂体操塾（現日本女子体育大学）の創設者として著名であり、他方、マルティナ・オスターバーグは 19 世紀後半のイギリス公教育における身体教育指導者として知られ、1885 年にオスターバーグ女性体育教師養成カレッジを創設することで女子中等教育への身体教育の普及にも貢献した。二階堂は、東京女子高等師範学校（以下、東京女高師）助教授就任の翌年にあたる 1912 年から 1914 年まで文部省の命によりイギリスに留学し、主としてオスターバーグの女性体育教師養成カレッジで体育指導法を学んでいる。二階堂体操塾を創立したのは、帰国から 8 年後の 1922 年であった。二階堂トクヨの伝記的研究は主に日本女子体育大学関係者の手によって多数公刊されており、オスターバーグから受けた影響についても言及されている。

本発表では、二階堂とオスターバーグの繋がりを、両者の著作を基に、ジェンダーとトランスナショナルというパースペクティブから歴史的に考察する。とくに注目するのは、スウェーデン出身のオスターバーグが自国で学んだスウェーデン体操をイギリスの基礎学校で普及するために用いた方策、その後ミドルクラスの女子中等学校向け身体教育として内容を再編成した過程とその戦略、そして二階堂がオスターバーグの女性体育教師養成カレッジへの留学で経験した教育の内容、およびオスターバーグの教育法を東京女高師で実現することに努めた際の葛藤や対立である。二階堂体操塾は、オスターバーグの体育思想と教育方法を日本の土壌に根付かせることを目的に、二階堂が私財を投じて設立した学校であった。本報告では、オスターバーグと二階堂の教育思想や実践および女性観を検討することにより、スウェーデンからイギリス、イギリスから日本へのトランスナショナルな流れを解明し、そこでの文化摩擦、対立と葛藤、混交と再編の様態を明らかにしていきたい。大まかな構成は以下の通りである。

1. 日本における女子教育への身体教育の導入と二階堂トクヨ
2. マルティナ・オスターバーグとスウェーデン体操のイギリスでの普及
3. オスターバーグ女性教師養成カレッジと女子中等教育への身体教育の導入
4. 二階堂トクヨのオスターバーグ女性教師養成カレッジへの留学
5. 帰国後の二階堂トクヨと二階堂体操塾の創設

本発表は、JSPS 科研費 23K20678、25K05844 の助成を受けたものです。